

事業方針	事業の推進	<p>・新制度への対応・・・小規模保育事業を中心に検討をする建物に対する補助率が高い企業型小規模保育事業を検討していきたいが、人材不足の壁もあり市の2歳児保育の事業の動向を見定める必要がある。引き続いての検討課題となる。小学校3年生までの長期休暇中の預かり保育が増えた。</p> <p>・家庭教育の重要性・・・親子での地域活動として、田んぼの会を始める。30組以上の家族の参加があり年間を通じて楽しむ。</p> <p>・浜松市私立幼稚園協会における共同研究を通して、環境教育の見直しをはかり研究発表をする。</p>	
	平成29年度決算より	<p>・北園舎2階壁面及び1階教室ロッカーの修理</p> <p>・HPのリニューアル</p>	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	<p>満3歳児教育の充実</p> <p>小学校との連携</p>	<p>入園案内パンフレットにおいて、満3歳児より発達段階を設定し、保育の目標を明らかにした。当園の特徴である体験活動を満3歳より実践する。</p> <p>児童期への連続した学びの在り方や発達段階についての理解が各教員において理解がすすむ。特に年長担任において、小学校との接続を意識した保育の設定(椅子の座り方、鉛筆の持ち方など)がなされ、同時に保護者への情報提供がなされた。</p>
2	研究計画	<p>指導方法のスキルアップ</p> <p>活動記録を生かしてふりかえる</p>	<p>浜松市私立幼稚園協会の共同研究発表の機会により、教師の環境設定や言葉がけにより子どもの興味や関心が広がることの事例が発表された。特に担当教師において大きな自信につながり園内で指導的な役割を果たせるようになった。</p> <p>活動記録を互いに検証することで教育研究が深まった。</p>
3	地域連携計画	<p>地域の自然等のかかわりを深める</p> <p>地域の人を対象とした講座の開催</p>	<p>自然を介して親や地域の人とかかわることができ周りの人に対して積極的にかかわろうとする子が増えた。保護者も自分の子に限らず周りの来への声掛けができるようになった。</p> <p>祖父母参観会や絵本講座などを通して、園とかかわりのある地域の方の参加が進む。特に祖父母においては、積極的に活動に参加して下さる方が増えた。今後、祖父母参観会に限らず主体的に園活動に参加して下さる方を募ったり開かれた園の在り方を研究していきたい。</p>
4	施設設備計画	<p>園庭整備</p> <p>北園舎の壁面、ロッカーの修繕</p>	<p>ビオトープを中心とした園庭の整備計画をたてるが、予算規模が大きすぎたため再検討を要する。各種助成金の活用の検討が必要。</p> <p>北園舎が築35年となり、老朽化が見られる。29年度は2階壁面の壁の塗りなおしと1階教室のロッカーの修繕を行う。</p>
5	管理運営計画	<p>教員資質向上</p> <p>職員の役割分担の再編成</p>	<p>障害児理解に関する理解がすすむ。音楽指導について夏の研修を生かした指導を主任を中心に取り組むことで、効果が見られた。</p> <p>計画性をもって仕事をこなす職員が増えた。常に「なんのために」という目的意識が持てるように保育を構成していきたい。</p>
6	財務計画	<p>施設の多機能化を視野に入れた経営判断</p>	<p>預かり保育の利用者・・・149人(昨年度123人)</p> <p>夏休み、春休みの小学生の利用・・・10人</p> <p>保護者の就労だけでなく、育児ストレスの解消にも役立てることができるよう配慮する。(各教員の家庭理解の高さによるところが大きい)</p>